

港区立芝浦小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」について、文型に当てはめて書くことは比較的できるが、自分の思いや考えを整理して文章に書き表すことに課題がある。 ・「話すこと」に対して苦手意識をもっている児童が多く、全体への発言やスピーチの場面で堂々と話しをすることに課題がある。 ・読書量に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に自分の思いや考えを書く活動を取り入れ、まずは書くことに慣れさせていく。 ・書いた文章を友達と読み合うことで、語彙を増やしたり、表現方法を習得したりして、自分の思いや考えを文章に表す力を身に付けられるようにする。 ・昨年度までの校内研究(国語「話す・聞く」領域)の実践を中心にペアや小集団で話し合う活動を継続していく。 ・誰もが安心して自分の考えを伝えられる学級づくりを意識し、自分の思いや考えを話す場を日常的に取り入れていく。 ・学級文庫に様々なジャンルの本を準備したり、読書をする時間を各学級必ず設けたりすることで、身近に本がある環境をつくり、慣れ親しむことができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	経験・知識・資料を基に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり、解決したりする資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な学びと、実感を通じた理解につながるよう、今まで以上に地域を活用して、見学や交流の機会を増やしていく必要がある。 ・資料を多角的に読み取る知的で楽しい授業を展開し、思考力と表現力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年では、体験や資料から分かったことと考えたことをノートにまとめる活動を行う。 ・高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる時間を設け、考えたことを記述・交流させることで表現力を高める。 ・今年度の校内研究の内容である総合的な学習の時間との連携を図る。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見いだすことや、その性質を基に既習の図形を捉え直すことに課題がある。 ・既習で使用した図、数、式、表やグラフなどを活用して問題を解決したり、発展的に考察したりする活動に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりする活動を繰り返す行う。 ・面積の求め方の表現を振り返り、図形を構成する要素にも着目させるようにする。 ・低学年のうちから、式、図、数直線など、数学的な表現方法を意識的に取り入れることで、表現する力を高めていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>自然に親しみ、見通しをもって活動を通して、より妥当な考えをつくりだすなど、問題を科学的に解決する力を養うために、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など学習活動において、意欲的な姿が見られるが、根拠をもった予想や考察など、思考を言語化することに差がある。 ・自然・地球領域での知識や技能の定着に課題がある。 ・生活経験や既習事項と学習内容を結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした問題に対して、予想や仮説を基に解決の方法を発想し、観察、実験などの結果を整理し、結論を導きだすといった問題解決の活動を、ICTなどを活用しながら丁寧に行う。 ・教科横断的な学習を活用して言語能力の向上を図る。 ・動植物との関わりや天体の調べ学習において、デジタル教材などの活用や校内での飼育・観察などの共有を図り、体験活動を積極的に行う。 ・既習事項の定着を確かめる時間を確保する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 ・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 	<p>与えられた活動にはほとんどの児童が楽しんで取り組むが、自分の思いを膨らませ、調べたり工夫して表現したりする主体的な活動については課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習対象との出会いの場を工夫したり活動や体験をしている児童の姿を丁寧に見とったり、教師の言葉掛けや働き掛けを工夫したりして、児童の主体性を引き出し、児童一人一人が思いや願いを膨らませられるようにする。 ・「探検する」「調べる」「飼育・栽培する」「制作する」「交流する」「表現する」「発表する」などの多様な学習活動を設定することで、児童が具体的な活動や体験を通して生活上必要な知識や技能を身に付けられるようにするとともに、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとする児童の態度を養う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。</p>	<p>主体的に音楽と関わろうという姿勢は見られるが、対話を通して、協働的に表現を高めるということについて課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現のプロセスを大切にし、音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける際には「比較する」「関連付ける」「言葉や体の動きなどで表す」などの具体的な手だてを工夫する。 ・考え方や感じ方を広げて深める学習活動の工夫として、「他者の考え方や感じ方に触れる」「聴きとり、感じとったことを交流する」など、対話的な学習を取り入れる。

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>展覧会が行われることから、お互いの表現のよさを認め合い、学び合う場を生かして、資質・能力の育成を目指す。</p>	<p>色や形から自分のイメージをもち、主体的に活動を展開することはできているが、多様なイメージを関連付けたり、表現に結び付けたりする力に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、展覧会が実施されることから、表現活動のプロセスをじっくりと味わったり、友達の作品の美しさや面白さを味わったりする能力を高めていく。 ・児童の実態を把握し、個々の児童のもつ資質・能力を高める題材を開発し、児童への共感を大切にしたい指導の工夫を続けていく。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>家族や家庭、衣食住、消費生活や環境などについて、日常生活に必要な知識・技能を身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する。</p>	<p>基礎的な内容を理解し、実践する意欲はあるが、学習や実習を振り返り、課題を見つけて次の課題に向かい、発展させようとする力に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住や家族の生活などの家庭生活に関する学習においては、調理、製作などの実習や観察、調査、実験等の実践的・体験的な活動を取り入れるなど、実感を伴って理解する学習を展開する。 ・実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる。

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>主体的・対話的で深い学びを通して運動や健康に関する自己の課題を見付け、すすんで課題を解決できる力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・握力の数値がほとんどの学年で都平均を下回っている。 ・日頃から運動に親しむ児童とそうでない児童の二極化の傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒の学習の感覚づくりとして、「だんごむし」をどの学年でも取り入れる。 ・握力グリップを各教室で配布し、日頃から数値を確認できる環境を整える。 ・体育館に設置されたボルダリング施設を活用し、握力に関心をもたせる。 ・長縄週間などの運動に関する取組を行い、運動に親しむ時間を意図的につくる。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際科の授業を通し、世界の言語や文化に興味をもち、多様性を尊重する心を育む。 ・英語の語感を養い、学んだ文や言葉を思考して表現する力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では興味、関心が高く意欲もあるが、高学年になるにつれ意欲のある児童とそうでない児童の差が大きくなる。 ・高学年では英語を話すことをためらう傾向がある。 ・英語の意味を理解して使おうとする思考力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、フォニックスを取り入れ、英語の音とリズムを体にインプットさせる。 ・NTと連携しながら、授業の中でスモールトークを積極的に行い、英語を口にするにもっと慣れさせる。 ・英語のスキーマをできるだけ多く獲得できるように、言葉の意味をしっかりとつかませ、思考しながらアウトプットできるようにする。 ・言葉を提示するときに関連した単語も紹介しながらスキーマを広げていく。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態や状況に応じて、教員がねらいを明確にした授業を行う必要がある。 ・ねらいに即して自分自身の振り返りを行う時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに即して、自分自身を見つめなおす活動を入れるようにする。 ・学校の行事や学級の実態などを正確に把握し、それに応じて、ねらいを明確にした授業を展開する。 ・多面的・多角的に物事を捉えさせるために、ツールを使用するなどして、話し合う時間を計画的に設ける。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	望ましい集団活動を通して、人間関係を形成する力や社会に参画する力、自己を生かす力を育成する。	活動制限の影響で学校行事の経験などが、教員、児童ともに少なく、計画、実践、振り返り、改善のサイクルで学習が進んでいないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童主体で活動や行事を行えるよう指導する。 ・意欲的に取り組むために、PDCA サイクルで学習を行えるよう、計画的に活動を進めていく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。	もっている知識量が多く、まじめに活動に取り組むことはできるが、知識を学習活動や生活に生かしたり、自らすすんで考え、行動したりする力に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・探究の学習過程(課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現)が繰り返されるような単元づくりを行う。 ・教科との関連的な指導を行う。 ・校内研究を生かし、総合的な学習の時間の進め方について共通理解を図る。 ・単元で活用した資料や情報、指導案などをまとめ、年間指導計画とともに、引き継ぐ。